



元朝 初日の出 梅の宮神社から塩釜港を展望

厚生協会だより

2012年1月21日
第 311 号

発 行
(財)宮城厚生協会

〒985-0835
宮城県多賀城市下馬
二丁目13番7号
TEL 022-361-1113
FAX 022-361-1124
発行人：長 澤 清 光



青空と 笑顔が作る 社会の輪

若人よ 先人の知恵 受け継いで

初日の出 命の砦 輝けり

しおかぜヘルパーステーション 笠神

佐藤志津子

迎春



年頭のごあいさつ

震災からの復旧・復興を具体化する年

公益法人申請に踏み出す年



宮城厚生協会理事長

水戸部 秀利

教訓を学び考え、 その一歩を踏み出す年

2012年、地球は何事もなかったかのように公転し年は明けました。巨大な熱球マントルに浮かぶ薄皮のような地殻とそれを包む水と空気の数十キロのすき間で、私たち人類はたくさんの生命と一緒に進化し文明を築いてきました。地球にとってはくしゃみ程度だったのかもしれないが、地震と津波の猛威の前に、

その生きる舞台の脆弱さを見せつけられました。また、私たちは70年ほど前に原子力という第二の火を発見しました。が、争いと浅知恵と欲得で原発・原発に応用し、その惨劇と愚かさを再び目の当たりにすることになりました。

私たちは、自然の猛威の前には、パスカルの言うようにひ弱で寄り添う葦かもしれません。しかし「考える」葦、なぎ倒されてもそこから教訓

を学び考え立ち上がる葦であり、その一歩を踏み出す年にしていきたいと思っています。今年、震災からの復旧・復興を具体化する年、法人にとっては1年遅れましたが公益法人申請に踏み出す年になります。

第二の巨大な「政治の津波」に立ち向かう

復旧・復興をめぐる、被災者にとって第二の巨大な津波が襲いかかろうとしています。

す。それは「政治の津波」です。自公政治「No」の世論で誕生した民主党政権は迷走の挙句、三代目首相は、国民のあらゆる期待を裏切り、「トシヨウ」から保守本流を駆け上がる「異リ竜」と変身し、TPP参加、消費税増税、普天間基地の辺野古移転などなりふり構わず進めようとしています。

村井県政も、被災者や被災地の立場に立った個別の生業の復旧よりは、創造的復興を台言葉に、「水産特区」「医療産業都市」「メガバンク」など、弱小産業の切り捨て集約化と大型プロジェクトを呼び込むことに邁進しています。

私たちは、被災地・被災者の現場から一緒に声をあげ、この「政治の津波」に立ち向かうことが復興元年の重要な課題です。また、「原発ゼロ」を国民的世論に広げ、原発推進勢力を包囲していくことは福島福島の惨劇を繰り返さないために人類の未来をかけた課題です。

「絆」をさらに豊かに する大切な年

震災で法人は長町病院付属

クリニックを失うなど、7億円の損失となりました。公的な助成もない中で、財務改善は無理?という声もありましたが、1年間で何とか自己資本をプラスにし、公益法人申請につなげたいという思いを率直に全職員・共同組織・患者さんに呼びかけました。

その結果、全職員の奮闘で経常利益を確保し、多くの方から1億円を超える寄付金が寄せられ、決算の見通しは立ちつつあります。

.....

茫然自失状態だった3・11支援に駆けつけた多くの民医連の仲間、職員の必死の努力、たくさんの方の共同組織の協力で、何とか展望を持てるころまでたどり着きました。

グローバル市場経済の行き詰まる中、「99%の声と絆」が歴史に波紋を広げています。

2012年は、震災の最中で培った私たちの「絆」をさらに豊かにする大切な年です。一緒に手を携えて進みましょう。

待たれていた

「長町病院附属歯科 クリニック」

診療再開！

歯科衛生士主任 千田 陽子

◆ 沢山の励ましの言葉

12月1日に長町1丁目で「長町病院附属歯科クリニック」の診療を再開しました。3月の東日本大震災で閉鎖を余儀なくされてから、9ヶ月間患者さん・友の会会員さんには、大変ご不便ご心配をおかけしました。また、友の会や病院に通院患者さんから「再開まで待っているからねー」と励ましの言葉を沢山いただきました。中には職員が異動した古川歯科まで通院された方も少なくありませんでした。

9月の法人理事会で再開決定後、友の会健康まつりを含め、事前の地域訪問行動は3回270軒を訪問、再開案内ハガキは2回3000通を送。

◆ 予約開始時刻と同時に 電話鳴り止まず

本格的な工事開始は11月10日。23日から常駐体制を取り、電話予約をスタート。予約開始時刻と同時に電話が鳴り止まず多くの方から予約連絡をいただき、うれしい悲鳴を上げました。前日の昼には、流し台やパーテーション



歯科クリニックスタッフ（応援スタッフ含む）

ンは未設置で、トイレも使用できず、待合室の床もコンクリートのまま、「本日に明日再開できるのか？」不安でしたが、業者さんのラストスパークで、23時には何とか形を整えることができました。

◆ 地域に無くてはならない 存在、大きな期待感じる

当日は、法人、長町病院友の会会員さんとテープカットをして診療を開始。震災の瞬間に受診中の患者さんが来院し、当時の模様をいっしょに振り返り、お互い無事だったことを喜びあいました。

再開後の来院患者さんの中で、延べ73名（12月28日現在）の方が寄付金を持参され、「年金生活で少しだけ取っておいて」「再開本当によかった、これを使ってくれたい」と、多くの患者さんから寄付金をいただきました。長町歯科が地域の中で無くてはならない存在であること、患者・友の会会員さんの大きな期待を感じています。

◆ 駅から歩いて18歩と いう好条件

地下鉄長町1丁目駅から徒歩18歩で1階という好条件で、通勤の際に看板を見て予約を希望する方、車椅子や杖をつき来院される方など、本当にこの地で再開してよかったと感じています。体制は震災以前の1/3以下の規模、最小人数スタッフでの再開のため、患者さんの要望に十分応えられず申し訳ない気持ちでいっぱいです。現在も多くの方から予約電話をいただき、診療は3〜4週間先という状況です。以前からの通院患者さんからは「今まで待ったのだから、長町歯科で



治療中の山岸所長

診てもらえるなら、予約が3週間先でも待っています」との声も。

◆ 「安定した黒字構造」 実現めざす

今後は、限られたスペースですが体制等を補強して、患者さんへの診療条件を改善させたいと思っています。そのためには、歯科が長年課題としてきた「安定した黒字構造」を実現させることがなによりも重要です。12月27日現在で患者数は当初予算比152%、収益は予算比120%と順調なスタートを切っています。スタッフ一同力を合わせがんばりますので、今後ともよろしく願っています。

地域社会の中で「普通の生活」を考える

仙台錦町診療所事務長 金田 基



12月初旬、「今年の抱負」というテーマで、事業所のこと、プライベートなどザックバランにと原稿を依頼され、さて何を書いたものやらと思っているうちに年が明けました。

新年を仮設住宅で迎えた方々、原発被害からの避難先で迎えた方々は33万人余と報じられていました。私が住む七ヶ浜町でも仮設住宅入居者は2千名を超えています（民間賃貸仮設扱いも含む）。七つの浜のうち五つまでもが壊滅的な被害を受けた町では、「震災復興計画（2011～2020）」が提示され、11月に地区ごとの「住民説明会」が開かれましたが、被害の大きかった「浜」と少なかった「山・台」とでは住民の意識・関心の度合いも違います（参加者数：葛蒲田浜・花瀬浜・吉田浜521名に対し、境山・遠山・汐見台48名）。

七ヶ浜に居を構えて18年余、毎週末に葛蒲田浜を訪れる日課（週課？）は、「あの日」のあとも続けています。夏が来て、秋が過ぎ、冬になり、新年を迎えました。がれきが撤去され、家の土台だけが残された地区は、さながら「遺跡の発掘現場」です。ここに住んでいた人たちに以前のような「普通の生活」が戻るのはいつになるのでしょうか？ 仕事上のつながりとは別に、6年ほど前から多賀城・七ヶ浜地域の「まちづくり」団体に席を置き活動してきましたが、震災後は会合に出ても無力感にさいなまれることも少なくありません。

「抱負」とは「心中にいだく考え・決意・計画」とのこと。決意でも計画でもありませんが、この地域で皆が「普通の生活」を取り戻すために、自分ができうることを考え、実践していければと思っています。

抱負



地域の皆さんと励ましあい、パワーをいただきながら活動したい

若林クリニック事務長 加藤 隆雄



まさに「実感」です。

震災で家屋が全半壊し、窓口負担が免除される通院患者さんは6割を超えます。津波被害にとどまらず、度重なる激しい余震の結果です。津波で農地が破壊され、厳しい生計に追い込まれる住民も少なくありません。地域の高齢化は進み、複数の病院から多くの薬を処方されることが多い現状です。3月以降も「免除制度」を継続させる運動が必要です。

私事ですが、少々書かせていただきます。2004年に転勤後、7年半が経ちました。当初は「塩釜から来た若僧が事務長になった」と思われていたようですが、ようやく地域の皆さんに顔と名前が覚えられたかな、と感じています。しかし、ある友の会会員さんの話では「この地に30年住んでいるが、まだ新参者」とのこと。私などまだまだこのようです。

昨年の震災経験は、忘れられない出来事になりました。地域住民と友の会の「底力」を痛感する機会になりました。今年1年も地域の皆さんと励ましあいながら、パワーをいただきながら活動したいと思います。翌日まで疲れが残ることが多くなった今日この頃、体調を崩さず日々活動できるのは、優しい（？）職場の同僚、そして家族の支えのおかげと感謝しています。今年もよろしく申し上げます。

「30年目の転機」。気負わず、 じっくりと課題に向き合いたい

くりこまクリニック事務長 佐々木 利一



民医連に入職して今年で30年を迎えます。1982年5月1日のメーデーが初出勤でした。好天に恵まれてのデモ行進、その後の歓迎会。最近のことは忘れるけど、昔のことはよく鮮明に覚えているものだと感心します。

「30年目の転機」とでもいうのでしょうか。これまでは長く大崎地方での業務（県連事務局、みやぎ保健企画で計4年の都会生活はありますが）でした。昨年10月から自宅から40km離れたくりこまクリニックに転勤となりました。「栗駒の皆さんは元気で長生きの方が多い」ことを実感しています。ある人いわく「空気と水が綺麗だからさ」とおっしゃっていました。大自然の恵みが地域のみなさんの健康を守ってくれているのでしょうか。

そんな地域に福島原発事故による放射性物質を大量に含んだ稲わらを鶯沢地区に保管するという県の提案や、栗原地区北西部は空間放射線量が基準を3倍〜4倍の地域もあり、子どもたちの健康が心配される問題などがあります。

30年目の今年、気負わず、じっくりと課題に向き合いたいと考えております。

今年

「おれ流」発揮し前へ進んで行きたい

古川民主病院歯科クリニック事務長

相澤 正樹



昨年の12月1日に古川民主病院歯科クリニックの事務長となりました。併せて、同日に再開した長町病院附属歯科クリニックも担当することとなりました。全国的には珍しいことではないようですが、務まるかどうか些か不安です。

長町歯科が無事再開できましたが、再開までは厳しい道程で何ども心が折れそうになりました。しかし、そのたびに励まされたのが友の会の会員さんや患者さんからの再開を待ち望む声でした。その声に応えるためにも地域に根ざした歯科として更なる努力をしていきたいと思えます。

古川歯科も患者さんからの支持は根強く、予約間隔が長くなっても、待ち時間が長くても通ってくる辛抱強い(?)患者さんに支えられているなど改めて感じています。いずれにしても協会の歯科を頼りにしてくれる患者さんのためにも、安定して黒字の出せる構造にし、将来を見据えた歯科医療構想を作ることが最重要課題です。新体制になった管理部を先頭に職員一致団結して取り組んで行きます。

今年の干支は龍です。龍と言えば中日ドラゴンズ、中日ドラゴンズと言えば「おれ流」落合元監督。歯科事務長として不安はありますが、「おれ流」も発揮しながら前へ進んで行きたいと思っています。



県議会で初めて一般質問に立つ
天下みゆき議員 (12月9日)



天下みゆき —— 新まい県議の初議会

日本共産党宮城県議会議員 (前宮城民医連事務局長)

天下みゆき

座席は村井知事の真正面

11月13日、たくさんの皆さんの願いを託していただき、県議会に送っていただきました。あれから年末にかけてあっという間の1ヶ月半でした。

11月15日に当選証書をいただき、17日に初登庁。防災服の採寸がありましたが、男性用のサイズに合わせることに抵抗がありました。宮城県議会の女性議員は59名中5名と8.5%にしかすぎず、まずは県議会で女性の発言権をあげていく必要があると思いました。

県議会本会議での座席は、新まいが前でベテランほど後ろになります。私の座席は、傍聴席からみると一番前の右から2番目です。村井知事の真正面ですので、ニュースにチラッと登場することがまあります。

初めての一般質問、被災者の声とどける

さて、初めての県議会は11月28日から12月21日までで、私は12月9日に初めての一般質問を行いました。テーマは①中小企業の支援、②福祉・医療分野の震災復興、③宅地被害対策、④塩釜・北浜の防潮堤問題について取り上げました。中小企業支援については、二重ローン対策のための相談窓口となる地域事務所が、塩釜地域2市3町にないことがわかり、この地域にも設置するよう要請しました。議会では「検討する」との答弁でしたが、その後、塩釜商工会議所、多賀城・七が浜商工会、松島・利府商工会に設置されることになりました。この質問にあたっては、被災した商店や仮設店舗の要望を聞いてまわり、塩釜商工会議所との懇談を行い、その声を反映しました。

「因縁の対決、再び」「医療制度めぐり激論」

子ども医療費の無料制度拡大については河北新報で、知事と天下氏、知事選以来の「因縁の対決、再び」「医療制度めぐり激論」と書かれ、華々しいデビューとなったようです。今後、市民運動と合わせて、また知事に迫っていきたいと思います。

委員会は、希望通り「保健福祉委員会」になりました。委員会では、介護保険料の大幅引き上げへの対策、義援金等支給による生活保護廃止の問題などを取り上げました。また、被災3県で医師臨床研修マッチングが厳しい状況を踏まえ、復興期間の定数削減をしないよう国に働きかけることを迫りました。保健福祉部長は「今年の分については国に要望したい」と答えました。尚、当事者の運動を皆さんでお願いします。

今年は、TPPや「社会保障と税の一体改悪」とのたたかい、放射能汚染の徐染と賠償と健康調査、女川原発の再稼働を許さないたたかいなどが正念場となります。ご一緒に頑張しましょう。